

商学部



荒井耕先生

一橋大学経営管理研究科及び商学部教授  
専門は病院の経営管理学です

## 先生は所属する学部をどのようなものとお考えですか

商学部は一言でいえば「ビジネス」を学ぶところですが、ビジネスに関する単なるテクニックやノウハウを学ぶところではありません。経営学や会計学、マーケティング、金融論といった「企業経営に関わる現象を対象とした応用的な社会科学」を学ぶことを通じて、実際の企業活動に関わる出来事や問題について深く考え、的確な分析をし、現実的な解決策を打ち出す、そういう真の意味での「実学」を身につけるところです。

こうした「実学」を身につける上でとりわけ重要な役割を果たすのが、一橋大学で100年以上の伝統を誇る「ゼミナール」という少人数教育メソッドです。商学部ではことのほかゼミナール教育に力を入れています。このゼミナールを中核としつつ、ビジネスを広く深く学べるように様々な講義が体系的に提供されています。目指す人材は、すぐに役立つ知識のみを追求する近視眼的な合理主義者ではありません。深い洞察力と温かな心とをもって、自らが関わる企業を、そしてより大きな経済社会を、適切な方向に導き、人々を物質的にも精神的にも豊かにしていけるビジネス界の指導者です。

(<https://www.cm.hit-u.ac.jp/feature/#Block02> を基に作成)

## 先生のご専門について教えてください

公共性の高い（あるいは非営利性の強い）事業（「ビジネス」）を運営する医療機関における管理会計・経営管理について研究しています。伝統的には営利事業を運営する企業を対象とした研究が盛んになされてきましたが、社会的な関心や重要性が近年高まってきている医療機関を対象とした研究をしています。今日の医療機関は、医療・介護・保健・福祉サービスを複合的に提供する経営体となっておりますが、すでに医療だけで40兆円を超え、介護を含めると50兆円を超える巨大な事業分野となっております。しかも、2025年までには団塊世代が後期高齢者となり、その後も2040年代まで高齢者人口は増え続けるため、今後も急速かつ持続的に拡大し続ける事業分野です。一方で、政府による公定価格でサービスが提供されている点など、国としての政策・制度の下に事業が展開されているという一般的な事業とは異なる特質も有しています。公共性が高くまた事業環境が大きく異なる医療機関を対象とした研究は、とても興味深いものであると感じております。

## お勧めの本を教えてください

荒井耕(2013)『病院管理会計：持続的経営による地域医療への貢献』中央経済社

## 受験生へのメッセージをお願いします

商学部は、営利から非営利までの多様な事業の経営に関わる現象・課題に強い関心を持つ受験生には、ゼミナール教育を中心とした体系的な教育を通じて、非常に興味深い学びが得られる場であると考えております。

荒井先生、ありがとうございました！



友部謙一先生

一橋大学経済学研究科および経済学部教授  
近世以降の日本経済史がご専門です

経済  
学部

先生は所属する学部をどのようなものであるとお考えですか

橋大学経済学部・大学院経済学研究科は、大正・昭和初期以来の長い伝統に支えられ、これまで多くの経済人や研究者を輩出し、日本の経済発展を支えるとともに、経済学とその関連分野の研究・教育において日本でトップクラスにあり、世界でも上位に位置しています。経済学は所得を高める方法とか、景気や株価の予測をすることだけを考えるのではありません。経済学は、今の世の中の仕組みを理解し、どのような社会・経済制度が結果としてより良い成果を生むのかを示すことができる学問です。少し専門的にいうと、経済学は厳密な理論体系と実証分析の方法により、個人の日常のさまざまな意思決定から企業の戦略・政府の政策の立案まで、いくつかの選択肢から、一定の制約条件の下で何が望ましい選択なのか、何をすべきでないのかを考える判断基準を与えてくれる学問です。一橋大学経済学部・大学院経済学研究科は、学生がそのような経済学の魅力を理解して、よく学び、経済学の知見と分析方法を活用して経済・社会のリーダーになることを支援する、さまざまなプログラムを提供しています。例えば、経済学部のグローバル・リーダーズプログラム（GLP）、学部・大学院の5年一貫教育システム（4年間の学部教育と1年間の大学院教育（修士課程）を有機的に組み合わせ、学部入学から4年後に学士の、そして、5年後には修士の学位を取得することができるシステム）、大学院修士専修コースの専門職業人育成プログラム（高度な知識と能力を備えた専門職業人を養成する）などです。経済学部・経済学研究科の教員ひとりひとりの高い研究業績が、これらの教育プログラムを支えています。他大学との交流もさかんで、四大学連合複合領域コース（東京医科歯科大学、東京工業大学、東京外国語大学及び一橋大学が平成13年3月15日（木）に締結した「四大学連合憲章」に基づいて設定された）、文理総合コース（2大学間）、多摩地区5大学単位互換制、津田塾大学一橋大学単位互換制度などがあります。

友部先生ありがとうございました！

法学部



中西優美子先生

一橋大学法学研究科及び法学部教授  
EU法がご専門

## 先生は所属する学部をどのようなものとお考えですか

一橋大学の法学部では、教養と専門性の両方を身に付けられるバランスのとれたカリキュラムとなっています。また、短期留学、長期留学という留学制度だけではなく、通常の授業においても英語で実施される科目がおかれています。自由の度の高いカリキュラムが生まれ、広くまた深く学ぶことができるようになっていきます。同時に、系統立てて、学べるようにカリキュラムが創られています。自分の関心やペースに基づき、自分で学びたいものを選択し、学べる形になっています。大学は、高校ではありませんので、主体的に何を学びたいのかを考え、自分で時間割を作っていくことが可能です。前期課程では、法学と国際関係の基礎を学び、後期課程になると法学コースと国際関係コースに分かれます。法学コースは、民法、憲法・行政法、刑法などの国内法律科目が中心で、国際関係コースは、国際法、EU法その他、外交史、国際政治理論などの国際関係科目を学ぶことができます。2年の後半にゼミを選び、3年生から少人数のゼミナールが開始されます。この少人数のゼミが一橋大学の法学部の伝統でもあり、特徴となっています。女子学生の割合は、毎年増加傾向にあり、社会学部の次に法学部は女子学生の比率が高くなっています。法学部は女性教員も少なくなく、比較的ジェンダーバランスがとれています。

## 先生のご専門について教えてください

EU法、特にEU憲法、EU環境法、EU対外関係法を研究しています。大学生のときに国際法の講義の中でEU（当時EC）が超国家組織であることを知りました。超国家組織とは、条約によりEUの構成国が主権の一部（権限）をEUに委譲して出来上がっている組織で、EUの中では、立法機関、執行機関、司法機関という国家機関のようなものが存在し、国内法とも国際法とも異なる独自の法秩序が形成されています。私は、この権限委譲や権限をめぐる問題を特に関心をもって研究をしています。大学生のときに出会ったものに30年経った今も心惹かれています。EUは変化していきます。常に新しい立法提案がだされます。EUは理想を口にする組織です。新しいものが好きで、好奇心旺盛で、どちらかという理想を求めたいという気持ちをもっている自分にはEU法は合っています。

## お勧めの本を教えてください

『国際条約集』（有斐閣）

EU「憲法」であるEU条約、EU運営条約およびEU基本権憲章が掲載されている、『国際条約集』（有斐閣）（毎年、出版されています）をお勧めします。これには、国際連合憲章、欧州人権条約、気候変動に関するパリ協定など、数多くの条約が収録されています。それらの前文には崇高な理想が語られています。一度、読んでみては如何でしょうか。日本国憲法の前文と比較するのもいいでしょう。

## 受験生へのメッセージをお願いします

今回、取扱いました、コロナ問題は、日本だけではなく、EUでも、また、EUの構成国である、ドイツ、フランスなどそれぞれの国で、さらに、中国、台湾、韓国、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなど、世界各国において共通の問題になっています。それぞれの国で取り組み方法が違ってきます。これまで人類が対処したことがない問題ですので、正解はなく、それぞれの国が試行錯誤しながら、さまざまな措置をとっています。外国法を知ることは、日本の独自性、日本法の良さと問題点を知ることになります。大学で学ぶということは、知識を吸収するというだけでなく、将来の問題解決のための道具を備える場でもあると思います。恐れずに自分で発信できる力を身に付けてほしいです。大学でなくてもさまざまなところで学べます。年齢関係なく、学べます。ただ、大学には先生がいて、同世代の仲間がいて、図書館があって、主体的に学びたい人にとって、最適な場となっています。学びたいだけ学べます。学びたいものを学べます。

中西先生ありがとうございました！

## 社会学部



## 石居人也先生

一橋大学社会学研究科及び社会学部教授  
近代日本の衛生や死、老いについて研究  
されています

### 先生は所属する学部をどのようなものとお考えですか

所属している社会学部は、ひと口で説明するのが、なかなか難しい学部です。社会学部というよりもむしろ、社会科学部と呼ぶ方がふさわしいと言われることもあります。ただ、商学・経済学・法学はそれぞれ学部がありますので、社会科学を網羅しているわけではありません。また逆に、人文科学や自然科学を含んでいるという点では、社会科学の枠組みを超えています。幅の広い学問を、比較的自由に学べること、教員の専門分野が多岐にわたるのに比して、ゼミや教員間の垣根が比較的低いため、領域横断的に学ぶことができるのが大きな特徴といえるでしょう。そのため、1～2年生のうちに興味のある分野やテーマの授業をできるだけ履修して、所属するゼミや卒論におけたテーマを絞りこんでゆく方が多いようにおもいます。特定の学問分野に縛られることなく、追究したいテーマに即した方法で研究を進めるなど、あれこれと挑戦できますので、こういうこと（テーマ）を学びたいが、何学（部）でそれが学べるのかがわからない、といったような方にも、選択肢になり得る学部ではないかとおもいます。

### 先生のご専門について教えてください

歴史学、とりわけ日本の近代史が専門です。そのうえで、もうすこし絞りこんで、研究の柱をふたつご紹介します。ひとつは、近代日本を生きた人びとが、生きること・老いること・病むこと・死ぬことと、あるいは傍らにいる他者としての老者・病者・死者と、どのように向きあったり向きあわなかったりしてきたのかを検討することをとおして、それぞれの時代の文脈や社会のありようを考えています。いまひとつは、都市と隣接地域（郊外）との関係を、そこに生きた人びとの意識や経験に即しながら読み解くことで、かれらをとりにくく社会的な価値・規範が、現実の地域社会でどのように現象するのかを分析しています。ふたつの柱は、それぞれ別個にあるのではなく、たとえば、東京郊外の多摩地域に、都市住民むけの衛生施設が設けられる際、地域社会にどのような変化や反応、摩擦や軋轢などが生じるのかなど、両者を架橋するテーマで研究をかさねています。

### お勧めの本を教えてください

社会学部の歴史研究の一端に触れてもらうための3冊として

良知カ『向う岸からの世界史—一つの四八年革命史論—』（筑摩書房（ちくま学芸文庫）、1993年、オリジナルは未来社、1978年）

安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』（平凡社（平凡社ライブラリー）、1999年、オリジナルは青木書店、1974年）

吉田裕『日本の軍隊—兵士たちの近代史—』（岩波書店（岩波新書）、2002年）

### 受験生へのメッセージをお願いします

大学のカラーは、歴史のなかで、キャンパスの内外で、学生や教職員がかさねてきた活動によって紡ぎだされ、日々紡ぎなおされています。きょうはその一端に、教員の研究・教育活動を介して触れていただきました。みなさんにはぜひ、一橋大学の、各学部のカラーに、さまざまなチャンネルを通じて触れてほしいとおもいます。4年を過ごす大学ですので、有意義な場・時間にできるように、先を見すえて、いまを大切にお過ごしください。